

ひかり

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912 年(大正元年)11 月 2 日

2019 年 6 月号

第 678 号



Pentecost
聖霊降臨日

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

(ヨハネによる福音書 13:34)

耳の賜物

司祭 ヨナ成 成鍾
ソシ
ソシ

聖霊降臨日は教会の誕生日に当たります。使徒言行録 2 章には、およそ二千年前にエルサレムで起こったこの日の出来事が次のように描かれています。この日、集まって祈っていた弟子たちの上に聖霊が下り、聖霊に満たされた弟子たちが新しい力を受けて、いろいろな国の異なる言葉で神様の救いのみ業を語り出しました。そしてペトロの説教を聞いた三千人ほどが、主イエス・キリストの十字架と復活を信じて洗礼を受け、ここに、世界最初のエルサレム教会が誕生したのです。そして今も全世界の教会は、聖霊のお働きによって集められ、キリストの福音を聞いて信じ、また洗礼を受けるといふ聖霊降臨日の出来事を繰り返すことによって誕生し、また成長していきます。

聖霊降臨の出来事の中、最も知られているのは、弟子たちが多様な国々の言葉、つまり異言を語つ

たということです。弟子たちはガリラヤ出身の無学な者たちでしたし、外国に行った経験もありませんでした。ところが、彼らは学んだこともない新しい言葉を聖霊から頂き、それぞれ異なる言葉で神様の偉大な救いのみ業を語ったのです。これは聖霊によって与えられた異言の賜物だと言われます。今日においても、何か違うことを語る異言の賜物は神秘的な出来事として理解されています。

ところで、私たちは口での異言の賜物は耳での傾聴の賜物が前提とされている、ということを中心に留めておく必要があります。いくら格好良くて神秘的なことを言ったとして、それに耳を傾けようとする姿勢が整えられていなければ、何の徳にもならないからです。それは教会だけに止まらず、人間の営みの全ての部分に当てはまります。最初に耳を傾ける準備ができていない限り、私たちは互いに話すことも理解することもできません。聖霊による全ての賜物のうち、私たちが何より先ず求めながら祈るべき賜物は、耳の謙虚さです。

6月・7月の予定

◆6月	16 日(日)	三位一体主日・聖霊降臨後第1主日
	18 日(火)	聖書に学ぶ会(新約)
	20 日(木)	聖餐感謝日
	22 日(土)	殉教者オルバン
	23 日(日)	聖霊降臨後第2主日
	24 日(月)	洗礼者ヨハネ誕生日
	28 日(金)	殉教者主教イレナエウス
	29 日(土)	聖書に学ぶ会(旧約)
	30 日(日)	使徒聖ペテロ、使徒聖パウロ
◆7月	1 日(月)	聖霊降臨後第3主日
	2 日(火)	7月逝去者記念礼拝(聖餐式)
	7 日(日)	聖書に学ぶ会(旧約)
	11 日(木)	聖霊降臨後第4主日
	14 日(日)	修院長ベネディクト
	16 日(火)	聖霊降臨後第5主日
	21 日(日)	聖書に学ぶ会(新約)
	22 日(月)	聖霊降臨後第6主日
	25 日(木)	マグダラの聖マリヤ日
	26 日(金)	使徒聖ヤコブ日
◆8月	28 日(日)	おとめ聖マリヤの母アンナ
	4 日(日)	聖書に学ぶ会(旧約)
	5 日(月)	聖霊降臨後第7主日
	6 日(火)	8月逝去者記念礼拝(聖餐式)
	8 日(木)	主イエス変容の日
	8 日(木)	聖書に学ぶ会(新約)

※7月からの聖書研究会の日取りは検討中

男子会だより (6月)

今年も母の日の昼食” “マグロドン” 提供を行いました。昨年の反省からマグロを増量しましたが、いかがだったでしょうか？

川越日帰り研修旅行は6月26日(水)に決定いたしました。10時50分に東武東上線川越駅改札口に集合し、古い町並みをぶらぶら歩き(途中で昼食)、最後に川越キリスト教会を訪問します。研修旅行のリーフレットは礼拝堂受付に用意してあります。ご覧いただいて是非ご参加ください。

(記・平山 新)

■教会と私

木の十字架をつくる

木の十字架を作っています。

クリスマスチャンにとつて十字架は一つのしるしであり、それを見たり手に取ったりすると、イエスのこと、神様のことに思いが及び

ます。私は今まで、十字架はキリスト教グッズの店で探して、購入していましたが、身近に置くものとしてはやや不満でした。

そこで、昨年リタイアしたことを機に自分で作ることにしました。黒檀や紫檀、屋久杉や木曽ヒノキ、オリブの木などで作っています。手作業で、材料をノコギリで切り、カンナやヤスリで仕上げてゆきます。時間が掛かります。

十字架を作っていて解ったことですが、黒檀や紫檀は木材自体が堅く、加工するのに苦労します(黒檀は水に沈むほど堅い木です)。又、樹齢千年を超える屋久杉にノコギリを入れる時には、少し厳粛な気持ちになります。

又、作りながらイエスが架けられた十字架はどんな木であったのか、どのような形であったのだろうかなども考えます。更には、「何故十字架なのか」「十字架とは何か」「十字架上のイエスの死と、その復活とは…」などなど、思いに果てはありません。

唯、私自身、50年間、この十字架の上に生きる処し方を探し、苦しい時も楽しい時も過ごしてきたことには間違いありません。

これからも、十字架を見上げつつ歩んで行きたいと思っています。

(記・マルコ山中 一)

* * * 育ちの共存、思い出の共存

去る5月18日(土)はヨハネ藤田太寅の逝去1年目にあたり、多くの友人知己が集って、神崎司祭の司式、説教の後、会館で故人を偲ぶひとときを持った。

彼は兄弟の中では一番教会活動に熱心で、神様に身をゆだねた生涯を送った。式後の懇親の集まりでは、多くの方から沢山の思い出が吐露された。その中には、小生の知らない話、新たな発見もあって、時間の経つのも忘れるほどの素晴らしいひとときであった。

日曜学校での太寅のクラスには当時、香蘭女学校の生徒さん、教会の信徒のお子さん方沢山居られた。その方々の多くが、その後上級学校に進学、就職、家庭を持たれ、社会でのお役目を終えられ、すでにお孫さんを持つ世代となっておられる。いわば人生の坂道を登り終わった方々も居られた。

太寅はその方々の先輩として、礼拝のサーバーのほか日曜学校ク

ラス担任として、歴代司祭様の指導を受けながらご奉仕をしていた。先日のひとときでは皆様と太寅との出会いが長い年月を経ても三光教会という祈りの場で、再会し、再現されたことを改めて再認識させる機会でもあった。長い年月を神に守られながら育ち、その思い出を共有することが出来たひとときであった。まさにこのひとときは、三光教会のメンバー同士に、

「育ちの共存」と「思い出の共存」とを再認識させてくれた。このふたつの共存の認識こそが、日本聖公会の骨格であり、三光教会の筋肉であろう。

(記・クリストファ藤田 慶喜)

◆教会報「ひかり」に御寄稿を!!

エッセイ「教会と私」。内容は自由。400〜500字程度。広報委員にお届けください。いつでもお待ちしております。

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ
礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。
●礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
●わからない点は隣の席の者が案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、
毎朝 6:30 の早祷に引き続いて聖餐式

日本聖公会 三光教会 教会報「ひかり」 2018年6月号(第678号)

発行者：司祭 成 成鍾 編集・印刷：三光教会広報委員会